

お知らせ

平成18年 6月26日

島根県政記者会
資料提供先：倉吉記者クラブ
米子市政記者クラブ

『第4回 山陰道道路案内標識改善検討委員会』開催

～山陰道の標識改善案を明確にします～

「山陰道道路案内標識改善検討委員会」は、山陰道及び関連道路に関する道路案内標識について、道路利用者が的確に判断できる分かりやすい標識について、これまで3回の検討を行ってきました。

今回は、前回で提示された助言を受け、一般ユーザーへのアンケートを追加・実施した結果を反映させた最終的な改善案を示し、**有料・無料区間の区別が判別しやすい改善案を見極める**予定です。

今後は、この結果を踏まえ標識再整備計画を策定し**本年秋から年度末にかけて標識の改善に取り組みます**。

なお、会議は公開を予定していますのであわせてお知らせ致します。

記

日 時：平成18年 6月30日(金) 13:00～15:00

場 所：ホテル宍道湖 高砂の間
(松江市西嫁島2-10-16)

問 合 せ 先	
国土交通省中国地方整備局	松江国道事務所
TEL (0852)	26-2131
(技)副 所 長	永長 清志 (内線205)
管理第二課長	松本 信雄 (内線441)
資 料 提 供 元	
国土交通省中国地方整備局	倉吉河川国道事務所
国土交通省中国地方整備局	松江国道事務所

参 考

検討をはじめた経緯

山陰道については、国道9号松江バイパスおよび米子バイパスを有効に活用して山陰の高速道路ネットワークを形成したため、有料道路と無料道路が連なる全国でも珍しい供用形式となっています。これらの道路では、供用時期や道路管理者が異なるため、それぞれ異なった考え方の標識で案内されてきました。

松江バイパス区間の4車化による高速化や山陰道宍道～斐川間の延伸を間近に控え、これまで以上に交通量が増え利用圏域も広域化することが予想されます。また、有料区間と無料区間がわからず使いにくいというユーザー意見も年々増加しており、以上の様な状況を踏まえ、関係道路管理者が協力し抜本的な改善に取り組むこととしました。

一方、高速道路の標識には、地方部を想定した、IC間隔が比較的長い都市間高速と、首都高や阪神高速のような都市内高速の2種類の様式の標識が規程されていますが、松江バイパス等のように一般国道の性格上、IC間隔が極めて短く、その前後を都市間高速と連続する形態の道路に対応できる様式は存在しないことも事実です。

そこで委員会では、2つの様式の長所を利用して山陰道独自の標識体系を提案し、画像シュミレーション等を活用したモニター評価などにより慎重な検討を進めてきました。

先に起工した9号仁摩温泉津道路や新直轄尾道松江自動車道も同様の形態の道路となる可能性があり、今回の検討結果は、山陰における今後の高速道路整備に活用できるものと期待しています。

第4回山陰道道路案内標識改善検討委員会

議事次第 (案)

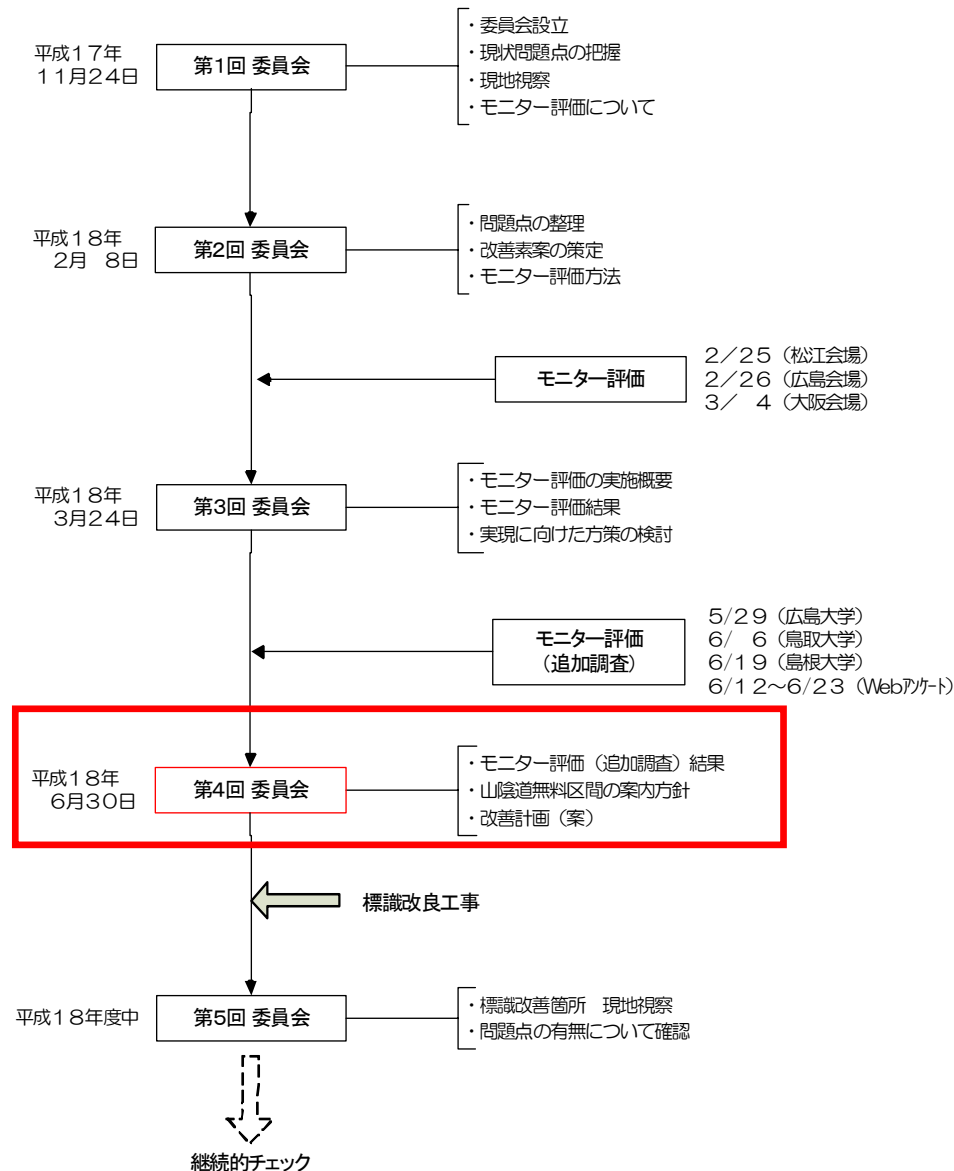
日時：平成18年 6月30日(金) 13:00~15:00
会場：ホテル宍道湖 高砂の間

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題
 - 3-1 第3回委員会の議事要旨の確認
 - 3-2 モニター評価結果(追加調査)
 - 3-3 山陰道無料区間の案内方針(案)
 - 3-4 改善計画(案)
- 4 閉会

<議事資料(案)>

- 資料-1 : 議事次第
- 資料-2 : 第3回委員会議事要旨
- 資料-3 : モニター評価結果(追加調査)について
- 資料-4 : 山陰道無料区間の案内方針(案)
- 資料-5 : 改善計画(案)
- 参考資料-1 : モニター評価会議 結果詳細版

スケジュール(案)



■ ■ 山陰道道路案内標識改善検討委員会名簿 ■ ■

委員長	杉 恵 頼 寧	広島大学大学院工学研究科教授
委員	喜 多 秀 行	鳥取大学工学部社会開発システム工学科教授
	猿 田 量	島根大学教育学部助教授
	木 坂 勇	(社)日本自動車連盟島根支部事務所長
	谷 口 義 人	(社)日本自動車連盟鳥取支部事務所長
	仲 田 賀 代 子	玉造温泉・夕顔の会(女将の会)会長
	三 原 俊 彦	(社)島根県トラック協会専務理事
	三 笹 修 正	(社)島根県旅客自動車協会専務理事
	富 長 一 郎	新日本海新聞社西部本社・編集局報道デスク
	竹 田 博 志	山陰中央新報社編集局編集委員
	柏 井 光	NPO法人まちづくりネットワーク島根専務理事
	武 田 幸 治	(財)鳥取県交通安全協会理事
アドバイザー	清 水 哲 夫	東京大学大学院工学系研究科助教授
オブザーバー	国土交通省中国地方整備局・西日本高速道路(株)中国支社・鳥取県警察本部・島根県警察本部	
事務局	鳥取県県土整備部・島根県土木部・西日本高速道路(株)松江工事事務所	
	・国土交通省倉吉河川国道事務所・国土交通省松江国道事務所	

■経緯

- 平成17年11月24日 「山陰道道路案内標識改善検討委員会」設立
- 平成18年 2月 4日 第2回委員会開催
- 平成18年 2月24日～ 3月 5日
シミュレーション画像によるモニター評価実施
- 平成18年 3月24日 第3回委員会開催
- 平成18年 5月～ 6月 モニター評価追加実施、Webアンケート実施
- 平成18年 6月30日 第4回委員会開催

■検討の特徴

- 関係道路管理者による共同検討
- 道路ユーザーやマスコミの代表・学識経験者による
検討委員会の設置
- 画像シミュレーションを活用した道路モニター評価
(松江・広島・大阪等の会場で延べ98人参加→追加でWEBアンケートを実施)